

【スマトラ沖地震・津波災害救援活動】

医師 中出 雅治

昨年末に起こったスマトラ沖地震に対し、世界中から赤十字に多くの寄付が寄せられ、赤十字連盟はただちに救援を開始、日本赤十字社も連盟の指揮下に津波発生直後より緊急援助チームを編成し、4月末まで現地で医療救援を行いました。国内外の救援を積極的に行っている本院では、過去の災害や紛争の際にも医師、看護師、技師らを多数派遣しておりますが、今回私は2月8日から約1ヶ月現地に派遣され、日赤医療チームの一員として活動いたしました。活動地はスマトラ島北部のアチェ州のムラボーという町です。



12人乗りチャーター機で現地入り

アチェ特別州は、元々アチェ族の武装組織が独立闘争をしている場所で、津波以前はインドネシア政府が外国人を排除していた地域です。ムラボーは、津波で最大の被害を受けたバンダアチェから西海岸を南へ200kmくらい下ったところにある町です。ムラボーでは他のNGOとして、国連、ユニセフ、国境なき医師団など、また他国の赤十字としては、スペイン赤十字が水の供給を、フランス赤十字が住民へのワクチン接種の活動をしていました。

現地では、海岸から約1kmが根こそぎ瓦礫の山と化しており、我々が着いた当初は遺体の収容こそ終わっていましたが、仮設住宅などのインフラの整備は全く進んでおらず、多くの人々がテント生活を強いられていました。



現地海岸沿いの状況

元の状態をイメージできないほど根こそぎ壊れている

日赤は州政府が軍のキャンプに隣接して設営した約2000人が生活するテント村の一角にエアータントを建て、ここでインドネシア赤十字の医師と二人で診療をしました。診療は薬代を含めて無料で提供されます。診療所には血圧計と体温計、マラリアを診断するキット以外の検査器具はなく、処置用品は、簡単な局所麻酔の手術をする程度のもの、薬品はWHOが設定した緊急援助用の薬品群だけで、非常に制限されたものです。1日70人前後、乳児からお年寄りまであらゆる疾患を持った人が来診します。コミュニケーションは、現地で雇った通訳を介して行います。日本からの医療団というので、テント村以外からも、虫歯や白内障、若いころからの神経痛など、緊急援助の対象疾患でない人も結構来て対応に苦慮する一方、日本にいる時のように検査を出したりCTを撮ったりなど全くできないために、診療はシンプルです。重症で対応しきれない場合は、ムラボーに一つ残った病院へ紹介状を書いて送ります。疾患傾向としては、内科系9割、外科系1割でした。



日赤ERU診療所



ERU診療所の内部



最後の1週間は別動隊としてチャーター機でスマトラ本島から100kmほど離れたシムルー島という人口8万人の島へ3人(私と看護師1名、通訳1名)で渡り、巡回診療を行いました。街の中心部にあったクリニックの一室に寝泊りしながら、毎日ワゴン車に薬品など一式を積んで巡回します。診療場所は、集会所、村役場、あるいはモスクであったりしましたが、着くと村中から人が集まってきて、患者さんと同じくらいの数の見物人に囲まれて診療していました。一週間の滞在期間は、インドネシア赤十字のボランティアの青年たちと文字通り寝食を共にし、食事から生活習慣まで全て彼らのスタイルで生活した貴重な体験でした。食事は主食は日本と同じ米ですが、これに数種類のおかずを大皿から適当にとってご飯とおかずを手で混ぜ合わせて食べます。風呂はなく、にごった水を手桶で浴びるのが風呂の代わりに、トイレを流すのも同じ水を手桶で汲んで流します。3日目には、出先の村の保健所(といっても津波で流されて建物だけが残っている)で泊まったのですが、あいにくその晩から大雨が降り続き、明け方に寝袋で寝ていた自分の身体半分が水に浸かっているのに気がついて起きたということもありました。幸い通信機器が浸からなかったのが助かりましたが、これが故障するとスマトラの本隊との連絡が不可能になるところでした。気温は34-5度前後、湿度はほぼ100%で、シャツを洗うと二度と乾かないので最後3日間はずっと同じ服を着ていました。シムルー島では、スマトラ本島よりもさらに薬品の種類と数量をしばって運んできていたために最後のほうは薬も底をつき、島の病院やインドネシア赤十字から薬を貰ってしのいでいました。

人々は皆友好的で、インドネシア赤十字のスタッフも我々に非常に気を使ってくれ、また3日目からは地元の病院の看護師らがボランティアで手伝いに来てくれました。医療班としては我々以外のNGOがシムルー島に入っておらず、被災者にも非常に好意的に受け止められ、巡回した全ての村から滞在を延長してまた来てほしいという要望が州政府にあったそうです。



大勢の見物人に囲まれての診察

緊急援助は4月末で終了しましたが、今後は日本赤十字として10年くらいの期間で種々の復興支援を行っていく予定となっています。